

後援会だより

「子どもの母校は我が母校」
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです。

2022年を迎えるに当たって



後援会会長
友利方彦（文香／国際文化学部）

日頃から、後援会活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

2020年より世界中で猛威を振るい始めた新型コロナウイルスの影響は、さまざまな方面に暗い影を落としています。特に大学生に与えた影響は計り知れず、早期沈黙化により、かつての学生生活を取り戻すことが急務となっています。

そうしたコロナ禍の中、2021年6月にスタートを切った2021年度の後援会活動も、早いもので半年が経過しました。この間、例年の活動に少しでも近づけようと、手探りの状態で後援会運営を執り行ってきました。

2020年度は一律に開催を自粛した支部総会・父母懇談会、首都圏父母懇談会については、オンラインまたは対面併用方式で開催することができま

した。新たな方式を導入したことで、例年より参加申込者数も増え、会員の皆さまの関心の高さをうかがい知ることができました。オンライン方式の採用により、会場までの移動なしに参加することが可能となり、後援会活動を身近なものに感じられるようになった一方、リアルな対面とは異なり、モニター越しでの交流の難しさを感じている方も多いのではないのでしょうか。今後もオンライン方式を併用した活動がしばらく続くという前提の下、会員相互の交流の図り方などを工夫していく必要があります。

大学もこの間、学生の学びの機会を確保することに努めてくださいました。いわゆる3密を避けるための環境整備や授業の工夫、大学拠点でのワクチン接種の実施などに取り組んでいた

だき、そのおかげで、秋学期授業は対

面を基本としつつ、オンライン方式も併用して進めていただいています。これまでの大学の取り組みに感謝申し上げます。

私立大学入学生定員の厳格化に伴う会員数の減少、支部会員数の減少下における支部活動の維持など、後援会を取り巻く環境も厳しさを増しております。それに加え、コロナ禍で縮小と中断を余儀なくされた、75年の歴史と伝統のある後援会活動の再開と継承も喫緊の課題です。

会員の皆さまのご意見に耳を傾け、定着化しつつある新たな活動方法なども取り入れた、持続可能な後援会活動を目指してまいりたいと思います。また、校友会との交流やHSC（法政スポーツコミュニティ）のスポーツ応援を通して会員相互の交流についても、関係者と相談しながら再開できればと



考えています。
一日も早く平穏な日々が戻り、会員の皆さまにとって2022年が幸多き年となりますよう祈念申し上げます。

支部長会議報告



後援会副会長
石井 亘（小雪／社会学部）

日頃より後援会活動にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

今回の支部長会議は、11月13日（土）に市ヶ谷キャンパス外濠校舎薩埵ホールにて開催しました。前年度と同様に、会場への来場とオンラインの併用で開催し、本部と支部を合わせ、来場48人、オンライン25人の参加となりました。前年度の支部長会議以降、オンラインでの会議開催も経験したことにより、前年よりスムーズに進行できたと思います。



廣瀬克哉総長より大学の近況や大学祭の状況などについてお話しいただいた後、五つのグループに分かれ、次の二つのテーマで意見交換を行いました。

①来年度の役員確保と父母懇談会の実施について

②支部会員数減少下の支部活動の在り方について

今回は、支部長会議に先立ち、全支部に対してこれらのテーマに関するアンケートを実施し、同じような課題を持つ支部でグループを構成したこともあり、活発な意見交換がなされました。テーマ①では、「役員のメリットをいかに伝えられるかが重要」といった意見が多く、支部から出た他、懇談会に参加してもらったために案内状で工夫している事例紹介などもあり、他の支部が大きくなるような場面も見られました。

テーマ②では、事前のアンケートで「父母懇談会の開催を本部に委ねたい」との意見が多くあった一方で、「できれば自分たちで対面での懇談会を開催したい」といった本音も聞かれました。また、コロナ禍の影響で「対面形式の



懇談会を開催したくても、ノウハウが継承されていない」「下級生会員に対してノウハウを継承できない」といった課題も明確になりました。

グループごとの意見交換の後、各グループから討議内容を発表していただき、全体で情報を共有しました。最後に、「本日の内容を持ち帰り、各支部で今後の取り組みの参考にしてほしい」「今後の支部活動の在り方については、支部と本部が一緒になって考えていきたい」という総括をもって閉会となりました。



ました。
後援会活動をより良いものにしていきたいという思いは同じですので、今後も皆さまの協力の下、本部、支部ともども取り組んでいきたいと思っています。最後になりますが、支部長会議の開催に当たり、廣瀬総長をはじめ、多くの大学関係者の皆さまにご協力いただきましたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。

※（ ）内は子どもの名前／学部

2021年 写真で振り返る後援会



- | | | |
|--------------------------------------|----------------------|-------------------------|
| 1 4月3日 入学式 | 2 5月15日 幹事会 | 3 6月6日 新入生父母の集い（静岡支部） |
| 4 6月12日 運営会議 | 5 6月19日 役員研修会 | 6 7月1日 大学常任参与と運営委員との懇談会 |
| 7 7月25日 支部総会・父母懇談会
（長野県支部・30周年記念） | 8 10月9日 首都圏父母懇談会（多摩） | 9 11月13日 支部長会議 |

総長・学内理事と後援会との懇談会報告

～ウェブサイト掲載のご案内～

2021年11月24日（水）、九段北校舎において総長・学内理事と後援会運営委員との懇談会が行われました。後援会ウェブサイトに運営委員の懇談会報告を掲載しておりますので、ご覧ください。



後援会ウェブサイト
<https://www.hosei-koenkai.org/>

体育会応援（野球部）～親からの応援メッセージ～ 社会人となる銀二へGO MY WAY



三浦礼子（銀二／キャリアデザイン学部）

野球のプレーヤーとして体格的には恵まれた方ではないにもかかわらず、地道な努力をして目標に向かう姿に、わが子ながら素直に尊敬しています。

幼少期から活発で、常に身体を動かして、側転や倒立ブリッジをして陽気に遊んでいました。あの頃は、体操や格闘技などの個人競技に取り組んでほしいと考え、本人と一緒に見学や体験を重ねましたが、全く興味を示さず、少し残念に思っていました。小学4年生の頃には、世界で活躍できるアスリートを育てる福岡県タレント発掘事業にもチャレンジしました。少年野球の試合の間を縫って臨んだ最終面接で、面接官の「自分の適性に合ったスポーツが見つかったら、そのスポーツに取り組みます」



「少年野球」小学4年生以下の大会で決勝まで連投が続き、肘を痛めてしまった

か？」という質問に、「野球かサッカーしかやりません」とはっきり答えた息子にとっても驚いたのを覚えています。結果は当然、不合格でした。今思えば、この頃からはっきりとした夢があったのでしょう。学校の授業で書いた作文「銀二の一生」には、「某球団の選手として活躍」と書いていました。

野球を始めた当初は、監督のサインが読み取れず、試合から帰宅後、泣いて押し入れから出てこなかったことが、ついこの前の出来事のようにです。そんな子が、優しい先輩と仲間、その保護者たちに出会い、引き上げてもらった結果、あれよあれよと成績を残すことができました。その反面、押しつぶされそうなプレッシャーとの闘いはつらかったでしょうね。弱音を吐くと崩れ



「U-18侍JAPAN」2017WBSC U-18の3位決定戦で先発（カナダ・サンダーベイにて）

そうだったのか、ひょうひょうとした表情を装って、「走ってくる」と言って暗闇へ出ていった時は、独りで苦しみと闘っていたのでしょう。

高校3年でU-18日本代表のユニフォームを着てプレーさせていただけた時は、夢を見ているようでした。さらに、法政大学という名門校で野球を続けることができ、そこでの貴重な出会いと経験を、本人さながら私も一緒に楽しみ、夢の続きを見させてもらっています。

決して満足とは言えぬ家庭環境にめげず、周りの方々に恵まれ、多くの支援をいただいていたからこそ成長できたことに、ありがたうと伝えたいです。支えていただいた方々、応援してくれた方々へ感謝の念を忘れずに、これまでの出会い、経験を糧にさらに成長することを願っています。ドラフト会議で指名いただき、今後はプロ野球選手として厳しい世界で闘っていくことになるでしょうが、好きな野球を



「法政大学時代」2021春季リーグ開幕戦は「ノーヒットワンラン」という珍しい記録を達成

存分に楽しんでほしいです。

人生の道のりには、紆余曲折があります。小さな楽しみを見つけて、過去でも未来でもなく、今を生き、大小の山を乗り越えていってください。そして、社会人として、人間として、胸を張って社会貢献できる人になってくれると嬉しいです。

コロナ禍で、思うような学生生活を過ごせなかったことは心残りですが、法政大学で学んだ4年間、主将まで任せてもらい、大切な仲間と過ごした時間を誇りに、これからもわが道を進んでください。